

2025年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	経営戦略研究科・教授
	氏名	石原 俊彦
海外客員 教員	所属・職	経営戦略研究科・招聘A教授 (英国ノッティンガム・トレント大学ビジネススクール教授)
	氏名	マーフィー・ピーター・マイケル
招聘目的		1. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)
招聘期間		2025年5月1日 ~ 2025年5月31日
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。		(1) 共同研究の内容 受入教員とその博士課程後期課程研究室(現役の博士課程後期課程生/大学院研究員・研究室OBOGの大学教員の合計約25名で構成)では、Murphy 教授の研究領域である Public Service Accountability (PSA) に大きな関心を有してきた。研究室のメンバーと受入教員は、それぞれに研究領域の視点から、PSAを各人の学問領域のフレームワークに組み込もうと模索してきた。今回の招聘による共同研究の内容は、これまでの Murphy 教授との研究内容を深化させて、その成果をPSAに関する原著の翻訳や英語による国際共同研究論文としてアウトプットすることにある。また、Murphy 教授の広く日本社会にも伝播するために、英国勅許公共財務会計協会(CIPFA)日本支部会員にも、研究内容をカンファレンスとして一般に公開した。 (2) 共同研究の成果 第1にCIPFA日本支部のメンバーと弊研究室メンバーで Murphy 教授を講師とする研究ワークショップを2025年5月5/18日に開催した。ここではPSAを実現するための基本的な問題点を、PSAの現状を整理することから行い、英国やイタリアの事例から日本が学ぶべき、公共サービス提供に関わる説明責任のあり方が要約された。この要約を受けて、共同研究メンバー各位ともに、各自の個人研究の充実を企図して現在、研究の発展に取り組んでいる。特に、大学院研究員の内1名は、Murphy 教授からのレクチャーに大きな薫陶を得、2025年秋学期にノッティンガム・トレント大学に半年間、客員研究員として留学することになった。その背景には、Murphy 教授とその同僚による手厚いサポートが存在する。こうしたサポートは、共同研究を土台とした研究者としての信頼関係の形成に基づくもので、今回の共同研究の成果の一部である。 第2に、Murphy 教授の編著『Public Service Accountability』(2028, Palgrave Macmillan) の研究内容について財務的な業績報告だけでなく、非財務的な説明責任の追求など様々な角度から意見交換を行った。その結果、同書の日本語による翻訳出版を企図することになった。編者は石原で、翻訳者にはこの共同研究のメンバーである関下弘樹准教授(和歌山大学)丸山洋三准教授(北陸大学)、荒木利雄教授(芸術文化観光専門職大学)などが参加予定である。

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます